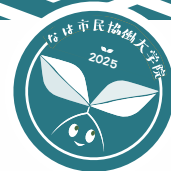


2025年度

なは市民協働大学院 事業概要書



主催：那覇市（まちづくり協働推進課）
業務受託者：NPO 法人地域サポートわかさ

ブログ「なは市民協働大学院」
フェイスブックページ

<https://nahabito2019.blogspot.com>
<https://www.facebook.com/nahabito/>



ブログ フェイスブック

なは市民協働大学院 2025 について

●事業目的

なは市民協働大学院2025は、地域課題の解決に向けた動きをつくり出すコーディネーター的人材の発掘・育成を目的としています。コーディネーター的人材とは、「地域の現状をしっかりと把握し、課題を発見・定義する視点を持った上で、地域に必要なプログラムをデザインし、その実現に必要な人材や組織をつなぐ(コーディネートする)ことで、地域課題を解決できる人材」です。本事業では、こうした人材に必要なスキルが学べるプログラム構成にしたほか、受講修了後に「地域コミュニティで活躍できる人材」「地域コミュニティをつなぐ人材」になるように促しました。

●コンセプト 「じっくり、しっかり、ちゃっかり」

なは市民協働大学院2025では、地域で「じっくり、しっかり、ちゃっかり」活躍できる人材の育成を目指しました。



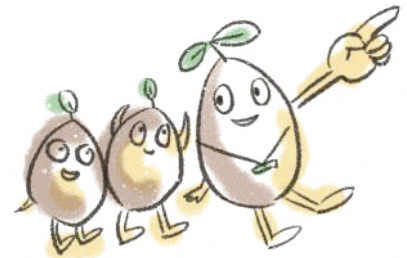
じっくり

地域の現状を鳥の目、虫の目でじっくり観察、把握して、地域の中に隠れた課題を発見できる



しっかり

発見した課題に対して、関係する人々をしっかりとつなぎ、しっかりした企画をきちんと実現できる



ちゃっかり

課題に真摯に取り組むつも、周りのみんなとちゃっかり楽しんで、いつの間にかちゃっかり仲間を増やしている

●運営体制

なは市民協働大学院事業の受託者(NPO法人地域サポートわかさ)は、若狭公民館の指定管理者として文部科学省「第70回優良公民館表彰」において最優秀館に選ばれたほか、「復帰50周年・うちなー地域づくり大賞」特別賞、「国際交流基金地球市民賞」「琉球新報活動賞」を受賞するなど、ユニークな地域づくりの取り組みは全国からも高い評価を得ています。これまでの活動で得たノウハウを活用し、行政(まちづくり協働推進課)とそれぞれの特性を生かしながら協働で講座を企画、運営を行いました。

また、地域で活躍するNPOや各専門家、なは市民協働大学院OBOG等による応援団『チアーズ』を結成し、受講生を伴走しながら応援すると同時に、講座で企画したアクションプランがより実現性の高いものになるように助言や人材紹介などに取り組んでいただきました。

さらに、講座以外でも日常的に意見交換、情報共有が行えるようにLINEオープンチャットを作成し、事務局と受講生の距離を縮め、継続的な関係づくりや双方向のサポート体制づくりに努めました。



受講生の応援団

チアーズ

安谷屋貴子 | NPO法人COJ コミュニティ・オーガナイザー

天久啓子 | なは市民協働大学院2024那覇西チーム

糸数貴子 | ななほしてんとうむし会

稲垣暁 | 災害ソーシャルワーカー・社会福祉士

鎌田耕 | 那覇市協働によるまちづくり推進協議会 副会長

城間幹子 | 那覇市協働によるまちづくり推進協議会 会長

玉城陽平 | CodeforHaebaru 代表

★照屋りさ | たのしむぞ〜!06

萩原雄三 | なはまちサロン

古澤さや夏 | 山下町自治会 班長

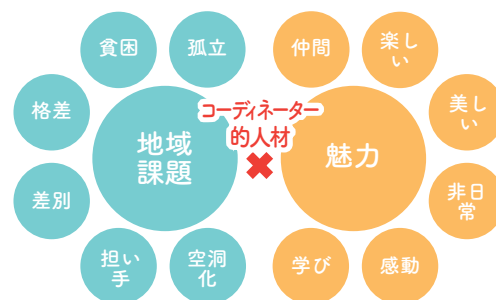
宮道喜一 | 石嶺小学校区まちづくり協議会 子ども育成部会長

★は、チアーズリーダー

育成プログラム

●地域課題 × 活動の魅力

地域課題の解決には特効薬がないため、市民が主体的かつ継続的に取り組む必要があります。そのため、地域の現状を把握し、適切な課題設定を行うと同時に、取り組み自体を楽しみと思える魅力あるものにしなければなりません。受講生が、地域課題と活動の魅力をかけ合わせ、様々な資源をつなげることができる人材となるよう、そのために必要なスキルや考え方(じっくり・しっかり・ちゃっかり)を学ぶプログラム構成にしました。



●協働マインド

地域には様々な思いを持った多様な人々がいます。それぞれの特性を活かし合いながら、相乗効果を生むためにも協働マインド(心構えや作法)の習得は、不可欠です。チーム活動での話し合いや地域調査でのフィールドワーク、合宿でのワークショップを通じてこれを培います。受講生同士、事務局、講師、チアーズとの交流を通じ、実践的なマインドが学べるように、全プログラムを通じて多角的に盛り込んでいます。



早く行きたいなら、一人で行きなさい。
遠くまで行きたいなら、みんなで行きなさい。

●地域調査と生成 AI 活用

地域課題の解決には、地域の現状を客観的に把握・分析することが不可欠です。本プログラムでは、校区まちづくり協議会カルテをはじめとする那覇市のオープンデータの活用法を学び、統計的事実確認から地域資源の特定、なほMAPの活用やヒアリングなどを通じて、地域理解と課題発見の視点を身につけました。その際、目覚ましく進歩している生成AIの活用法とリテラシーについても、実際に触れながら併せて学び、地域活動への活かし方を考えました。



●共感を広げるコミュニティ・オーガナイズ

どんなに素晴らしい企画をつくったとしても実現させるには仲間が必要です。共感を広げ仲間をつくり、それぞれの特性を活かした「協働」によって企画を実現させるために「コミュニティ・オーガナイズ」の考え方や手法について学びました。講師の安谷屋貴子氏には、チアーズとしても関わっていただき、講座全体を通して伴走していただきました。



●修了後に繋がるネットワーク

講座は、受講生が活動している、または活動したい地域ごとにチームをつくり取り組み、修了後も活動が継続・連携しやすくなるように促しました。また、関係者へのヒアリングや講座内で各ステークホルダーを交えて企画のブラッシュアップを行うなど、企画の実現性を高めると同時に、修了後にも活かせるネットワーク構築に努めました。



全体スケジュール

全8回の講座は、地域課題の発見から解決に向けた企画・運営の一連の流れについて、実行の直前段階まで順を追って学べるプログラム構成にしました。座学や実習をはじめ公開講座、合宿など、すべての要素が繋がりを、より学びが深くなるように設計しています。また、講座時間以外でも、必要に応じて相談会を設け、受講生が内容を理解し、目標を達成できるように努めました。チアーズは、全体の進捗状況に応じて適宜会議を開催したほか、講座内で受講生への助言を行うなど、伴走しながら企画実現への後押しをしました。

受講募集



「チアーズ」会議および講座参加



相談会・自主ゼミ

公開
講座

6月29日(日)
14:00-17:00
なは市民協働プラザ

地域課題×活動の魅力
不完全プランニングとプラスクリエイティブ
講師：永田宏和・なは市民協働大学院OBOG

目標設定

第1回

7月12日(土)
14:00-17:00
なは市民協働プラザ

開講式/オリエンテーション

第2回

7月29日(火)
18:30-21:00
なは市民協働プラザ

地域調査と分析・課題設定
講師：稲垣暁・宮道喜一(DMPO)

調査

第3回

8月19日(火)
18:30-21:00
なは市民協働プラザ

オープンデータと生成AIを
地域づくりに活かすコツ
講師：玉城陽平(Code for Haebaru代表)

課題設定

第4回

9月16日(火)
18:30-21:00
なは市民協働プラザ

企画づくり・アイデア出しのコツ
講師：宮城潤(NPO法人地域サポートわかさ)

強化
合宿

第5回

9月27日(土)
~28日(日)
森の家みんな

企画づくり強化合宿&中間発表
森の指令ゲーム/ロジックモデル仮説評価/
企画アイデア出し/カレー対決

企画

第6回

10月21日(火)
18:30-21:00
なは市民協働プラザ

共感を広げるコミュニティ・オーガナイズ
講師：安谷屋貴子

第7回

11月18日(火)
18:30-21:00
なは市民協働プラザ

企画ブラッシュアップ/発表準備
プレゼンのコツ 講師：石垣綾音

具現化

第8回

12月13日(土)
14:00-17:00
なは市民協働プラザ

最終成果発表会/修了式

※上記日程以外に、9月2日に相談会、12月2日に自主ゼミ(いずれも任意)を設けたほか、必要に応じて随時相談を受け付けました。



COG チャレンジ!!オープンガバナンス応募

講座の様子

第1回 開講式/オリエンテーション



第2回 地域調査と分析・課題設定



第3回 オープンデータと生成AI



第4回 企画づくりアイデア出しのコツ



第5回(特別合宿) 企画づくり強化合宿/中間発表



第6回 共感を広げるコミュニティ・オーガナイズン



第7回 企画ブラッシュアップ/発表準備



第8回 最終成果発表会・修了式



相談会・まち歩き



講座以外に、地域調査・分析を行う段階での相談会や各チームそれぞれまち歩きを行うよう促しました。また個別相談に応じ、企画のブラッシュアップに取り組みました。全講座修了後にも、COGチャレンジ!! オープンガバナンスに応募するチームの応募資料やプレゼンテーションに対する助言等を行いました。

最終成果発表（アクションプラン）

新都心チーム （新都心）



【対象地域】 新都心・おもろまち

【メンバー】

儀間 わかな・玉那覇 敦也
中村 優太

スイーツまつりあいのりカフェ ～新都心のリアルな話聞いてみた～

■誰のどんな課題か？

新都心地域に暮らす住民が感じる、近隣とのつながりの弱さという課題を解決する企画である。住民の声を直接把握し、世代を超えて気軽に交流できる仕組みを整えることで、地域の孤立感を減らし安心して暮らせる環境づくりを目指す。

■企画内容

本プロジェクトは、新都心地域における住民間のつながりの希薄さを解消することを目的に発足した。初期段階では、包括支援センターへのヒアリングを基に麴を活用した交流イベントを企画していたが、住民の実情を十分に把握しないままでは的確な課題解決につながらないとの懸念が生じた。そこで計画を一時中断し、地域の声を直接集める方針へ転換した。11月30日の地域イベント「おもろまちスイーツ祭り」に併設してアンケート調査を実施し、独居高齢者を含む住民から少数ながらも貴重な意見を収集することができた。本報告では、得られた回答を基に地域に必要な“つながりづくり”の方向性を整理し、今後の施策に活かすための具体的な知見を示す。

Wellbeing （真和志）



【対象校区】 真和志小学校区

【メンバー】

安座間 智美・喜納 利奈
平良 史子・渡慶次 正一
仲田 奨司

Let's てくてく登下校 !!

■誰のどんな課題か？

真和志まち協関係者との意見交換の中で、保護者による自家用車での児童送迎が増加し、登下校時に学校周辺で乗降による交通混雑が発生していることがわかった。このことによる安全面への懸念が高まるほか、送迎の駐停車により周辺地域に迷惑をかけている状況もある。さらに、立哨ボランティアの担い手不足も地域の安全確保における課題となっている。

■企画内容

「徒歩登下校率の向上」を目指した“てくてく登下校”が安全で楽しくなるような活動として、地域に定着させることを目的とする。その実現に向けて、子どもたちや保護者、地域住民・地域関係者を巻き込みながらワクワクするような活動を展開していく。

ステップ 1: 準備と現状把握のステージ(R7 年度予定)

現状の把握(アンケート調査)やPR 動画の製作、立哨ボランティアの募集。

ステップ 2: 活動の実践と効果測定ステージ(R8～9 年度予定)

“てくてく登下校”がより楽しくなる企画を段階的に実施。

ステップ 3: 地域全体への展開ステージ(R10 年度以降)

真和志地域全体へ広げ、安全で元気な声が響く地域づくりを目指す。地域全体で子どもたちを見守る文化を育み、持続的な取り組みとして根付くことを目指す。

最終成果発表（アクションプラン）

ゆいまーるの森 （首里）



【対象校区】松島小学校区

【メンバー】

金城 喜美代・瑞慶 覧りか
高良 実子・矢田部 建佑

つながる防災ゆいまーる

■誰のどんな課題か？

首里末吉地域では、伝統的な自治会運営の中で地域のルールや文化を尊重する一方、移住者との関わりが難しく、世代や新旧住民間の交流不足が課題となっている。また、末吉公園・安謝川上流は氾濫危険区域で、高齢者が多いことから、住民の防災体制強化も求められている。

■企画内容

本企画では、末吉公園や安謝川流域の豊かな自然と、その裏にある水害リスクに着目し、住民が主体となって自宅周辺の危険箇所や避難行動を考える「個別避難計画づくり」を中心に進める。安謝川上流域は緑豊かな一方で氾濫や土砂災害の危険が高く、日頃からの備えが重要である。まずハザードマップを用いて避難ルートや危険箇所を確認し、高齢者や子どもを含む各世帯に必要な安全確保のポイントを整理する。そのうえで、住民同士が相談しながら行動手順や必要な支援、連絡方法をまとめた個別避難計画を作成する。併せて防災グッズづくりを行い、世代間交流を促し、自然と共に暮らす地域の助け合い（ゆいまーる）の力を強化することを目指す。

パッション栄町 （真和志）



【対象校区】大道小学校区

【メンバー】

伊禮 道子・御園 楓
山城 悠子・力宗 寛行

ポケカで遊んで、まちを知ろう！ - 栄町市場からはじまる物語 -

■誰のどんな課題か？

栄町市場は「夜の繁華街」というイメージが強く、親子が近寄りにくいと感じる住民も多い。そのため、栄町市場が持つ昼間の魅力が十分に知られていない。その結果、住民の日常生活において栄町市場との関わりが弱まり、地域と栄町市場との間で分断が進みつつあることが課題である。そこで、栄町市場に近寄りにくいと感じている親子に、昼間の栄町市場の魅力を知ってもらうための企画とした。

■企画内容

栄町近隣の子育て世帯を対象に、子どもが参加したくなるポケカ大会を栄町市場で開催し親子が市場へ足を運ぶ入口をつくる。大会中、保護者には市場コンシェルジュ形式の買い物ツアーで昼の市場の安心感やお得さ、店主との交流による魅力を体験してもらう。市場マップ配布、当日のお買い得情報の提供、参加者向けミニ特典などで回遊と購買を促進。参加人数、満足度・再来訪意向を測りつつ、親子の再来訪と日常的利用を生み、ネガティブなイメージからポジティブなイメージへの改善を図り、地域と市場のつながりを広げる継続的なイベントへ発展させる。その結果、将来も子どもたちが地域に関わり続けたいくなるきっかけをつくることを目指す。

最終成果発表（アクションプラン）

まちなかつながる プロジェクト (中心市街地)



【対象校区】 那覇小学校区

【メンバー】

伊佐 亮汰・新里 えり奈
田邊 裕貴・渡嘉敷 大
宮里 伸一郎

シェアするご近所掲示板 「ご近所シェアるん♪」

■誰のどんな課題か？

那覇市国際通り周辺の自治会加入率は6.7%まで低迷している。転出入の多さや、旧来組織が求める「重い役割」が時代に合っておらず、コミュニティの形骸化が進んでいる。一方で住民の約9割は「挨拶程度のゆるい繋がり」や「地域情報」を求めており、既存の枠組みでは拾いきれない潜在ニーズに対して充足できていない状況がある。

■企画内容

「必要な時だけ、ゆるくつながる」自治会機能の補完モデルを構築する。

・ご近所シェアるん♪(デジタル掲示板)

LINEオープンチャットを活用する。地域のイベント情報を中心に、特売やおゆずり情報も織り交ぜ、20～40代を含む幅広い層をゆるく繋げる。

・ご近所マルシェ&タウンホール(リアルの場合)

ジュンク堂や「なはーと」等と地域4箇所を連携させたイベントを開催し、飲食や物販を楽しみながら、シールアンケート等で住民が気軽に意見表明できる場を作る。

那覇市や地域企業と協働し、「低コストかつ横展開しやすい」次世代型コミュニティの確立を目指す。

チームたからじま (小禄)



【対象校区】 高良小学校区

【メンバー】

高田 和加子・長田 八寿子
平敷 成美・饒邊 紫乃

新しい出会い (地域文化との出会い、地域住民との出会い) 「ムーチャー de Let's 厄払い」

■誰のどんな課題か？

高良地区には、旧小禄村からの住民の子どもたちが進学や就職など地域に戻らないケースが少なくなく、古民家に替わり賃貸住宅が建つ光景が散見される。世代も異なる新旧住民に向けて自治会は催しを行っているが、門中で構成され新規加入を広く受け入れていない。会自体の高齢化が進み、新住民に十分にアプローチできておらず、新たな住民交流の仕掛けが求められている。

■企画内容

高良地区では転入者が増える一方、地域文化や住民同士が出会う機会が不足している。そこで本企画では、ムーチャー作りを通して文化に触れながら交流できる場を創出する。昔ながらのシンメナービを使った工程に加え、蒸し時間には高良地区をテーマにしたクイズや、ムーチャーの由来が分かる絵本の読み聞かせ、月桃の葉を使ったクラフト体験を行い、幅広い年代が参加しやすい内容とする。また、若者の参加促進として、小禄中学校に、高良地区に自生する月桃の葉の刈り込みや、ムーチャー作り当日のボランティアを依頼し、SDGsパスポートを導入。自分たちで刈った葉で包む体験が興味と参加意欲を高める。さらに、旧住民を講師に迎え、伝統継承と地域のつながり促進につなげる。

最終成果発表（アクションプラン）

Team3/4 (首里)



【対象校区】

石嶺・城東・城北小学校区

【メンバー】

齊藤 奈々子・玉城 大聖
玉城 七海・玉城 優子

まるごとつながる居場所プロジェクト

■誰のどんな課題か？

家庭や学校で理解されにくい困りごとを抱える子どもは、助けを求めづらく孤立しやすい現状がある。本企画では、そうした子どもと、その周囲の大人たちにアプローチして、家庭・学校・地域がゆるやかにつながることで、子どもが安心して過ごせる環境をつくることを目的とする。

■企画内容

子どもを取り巻く家庭・学校・地域の三つの輪が連携し、子どもが「ここにいたい」と感じられる環境づくりを目指すプロジェクト。

まず学校では、小学校の先生へのアンケートを実施し、子どもが抱える困りごとや先生側の困難を可視化することで、現場の声を出発点に、私たちができる支援や連携の形を検討する。地域では、親子が気軽に立ち寄り、安心できる場所を紹介する「ほっ、とできる居場所MAP」を作成する。地域のお店や団体を巻き込み、家庭・学校・地域のつながりを広げることで、子どもが孤立しない温かい循環を生み出していく。

COG チャレンジ!! オープンガバナンス応募

地域課題に市民/学生が当事者目線で取り組む企画コンペ「COGチャレンジ!! オープンガバナンス」(主催: 東京大学)に、なほ市民協働大学院2025受講生から3チームがエントリーしました。大学院で取り組んだ企画をさらにブラッシュアップして臨んだところ、ファイナリスト12チームに2チームが選ばれました! 3月8日に東京大学で開催される最終公開審査に、「まちなかつながるプロジェクト」「真和志wellbeing」が選ばれました。「ゆいまーの森」もポスターコンクールで参加し、それぞれ下記の賞を受賞しました。

各チーム応募ポスター



まちなかつながるプロジェクト
視聴者オンライン投票「銀賞」



真和志wellbeing
JIPDEC 賞



ゆいまーの森
ポスター展「銀賞」

受講結果

●受講生について

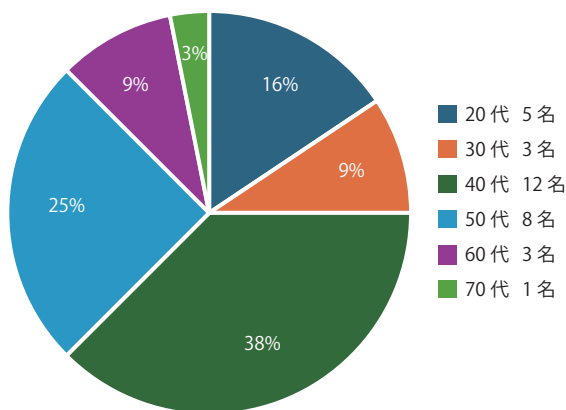
受講生募集については、募集期間中に公開講座を開催したほか、チラシや那覇市ホームページの他、SNS等を活用し、周知に注力しました。その結果、受講定員を上回る32名の申し込みが来ました。世代や属性は幅広く、すでに地域活動を行なっている実践者がほとんどで、「なは市民協働大学」の上級編としての位置づけどおり、地域の実情に即した実践的な取り組みを行うことができました。

今年度は、受講生の87.5%の28名が修了しました。

また、修了後のアンケートにおいて、「今後の自身の活動において生かされると思うか」という問いに対して、「とてもそう思う」「そう思う」と肯定的な回答が100%を示しました。

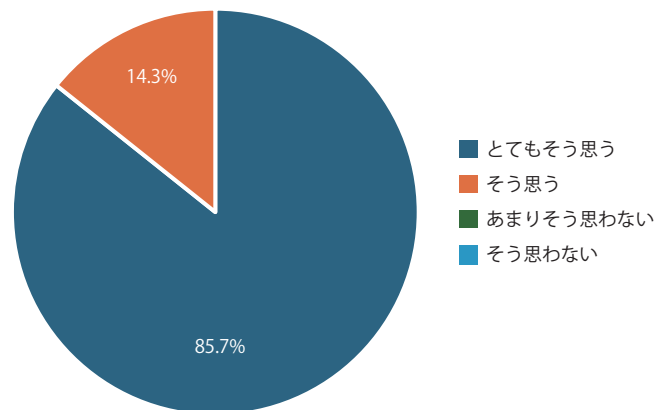
修了生 28名 / 受講生 32名

【受講生の世代】



【修了後アンケート】

Q.本講座で学んだことは、今後のご自身の活動に生かされると思いますか？



●受講生の声

良かった点、印象に残ったこと

- ・ 課題設定の際「誰のための課題」という視点を持つという話があり、より深掘りすることの大切さを気付いた。
- ・ 企画を形にしていく中でチアーズの方々に細かく指摘やアドバイスを頂き、ちゃんと見えていなかった課題や目標を少しずつグループの中でまとめていけたのが良かった。
- ・ 企画作り強化合宿や中間発表、ブラッシュアップの過程を通して、考えを言語化し、他者の視点を取り入れながら企画を磨いていけた点が特に印象に残っています。
- ・ 地域課題をチームで語り合い、またそこから広がるネットワークづくりの重要性。また、自己満足する企画ではなく、コミュニティで解決策を見出す力。
- ・ 合宿は他の人から意見をたくさん頂けてとても楽しかったです。わくわくしました♪ 自分たちの伝えたいことと伝わることのギャップを感じた後に安谷屋さんの講座を聞いて、ストーン落ちたと思います。

本講座を通じて学んだことや変化

- ・ 住んでいる地域だけでなく、近隣や同じ那覇市内の皆さんと情報を共有し、それぞれの課題について議論できた事。それによって横のつながりが増えて、今後も協力していける仲間が増えた事。
- ・ 本講座を通して、地域課題を「考えるもの」から「行動につなげるもの」として捉えられるようになったこと。また、一人で抱え込まず、周囲と対話しながら、特に自分のチーム仲間と企画を磨いていく大切さを実感した。
- ・ 誰かの幸せになる企画を考える事はほんとに楽しいなと思いました。これが計画だけではなく実際に進める事が出来たらいいなと思います。
- ・ 視点、視野、思いやり、人との接し方を改めて考えることが出来ました。地域で活動する仲間がいること。課題への視点の持ちかたなどを学ぶことができました。



修了生挨拶（修了生代表：ゆいまーるの森）

7月の開講式からあっという間の半年間でした。

私たちがこのグループは20代から70代までまるで年輪の違う木々が集まった森のように個性豊かなメンバーが切磋琢磨してまいりました。

しかし、この個性が強すぎたのか、なかなかなかなかまとまらず、アドバイスの先生からは、あっちをちょんちょん、こっちをばっさり。まるで盆栽の剪定のように整えていただきました。

元の形はどこに行ったのかと心配なるほどでしたが、不思議なもので剪定された後は、私たちの森らしさがより一層引き立つ形となり、おかげさまで先ほどの発表では、胸を張って表現することができました。

皆様、本日も多くの素晴らしい発表を聞くことができまして、私たちゆいまーるの森も今後もしっかり取り組んでいかなければならないなと強く心に決めております。

そして最後に、講師の皆様、チアーズの皆様、そして事務局の皆様、時には背中をそっと押してくれて、時には優しく支えて、私たち一人ひとりの芽を見つけて伸ばしてくださったことを心より感謝申し上げます。そして何より、一緒に学び合った仲間が存在がこの半年間で一番の宝物になりました。皆様この半年間本当にありがとうございました。

半年で取り組んだことは、始まりの一步であると思います。

この1歩、2歩、100歩、1万歩、ずっとずっと私たちの活動として歩み続けていけるように、また今後もこのせっかくできた仲間を大切にしながら、一緒に地域のことについて考えて協働によるまちづくりを進めさせていただきたいと思っております。

ありがとうございました。





なは市民協働大学院 2025